

# 特別支援教育ってなあに？

みんなが一人のために



## はじめに。。。

このマンガを制作した私達は「東京都知的障害養護学校PTA連合会」の平成16年度の役員です。

役員として特別支援教育について学んでいくうちに、子ども一人一人の様子や状況に応じたきめ細かい指導や支援を実現していこうという取り組みなど、その良さや意味を多くの人にわかってほしいと思うようになりました。

たまたま役員の中に、十年前にまんが家だった人がいたことから、まんがなら解りやすくそれこそ沢山の方に伝えられるのではないかと思い、この「まんがで見る特別支援教育」を企画するに至りました。

そして、平成17年度の「全国知的障害養護学校PTA連合会」の調査研究事業に選定していただき、時間がかかりましたがこのたび漸く形にすることができました。

特別支援教育の内容は広範囲にわたるものですが、ここでは主に知的障害養護学校の保護者に直接関わることを中心に書いています。なお、わかりやすさに重点を置いたため、語句等で多少厳密さにかける部分がありますがご容赦下さい。

また作成にあたっては、多くの方々に貴重な助言を頂きましたこと、厚く御礼申し上げます。

このマンガを一人でも多くの方に読んでいただき、特別支援教育についての理解を深めていただけたら幸いです。

平成16年度「東京都知的障害養護学校PTA連合会」役員一同

## ＊おもな登場人物＊



三都部校長



親子A  
(知的養護)



親子B  
(知的養護・重複障害)



親子C  
公立小



特別支援コーディネーター

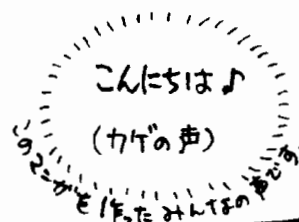


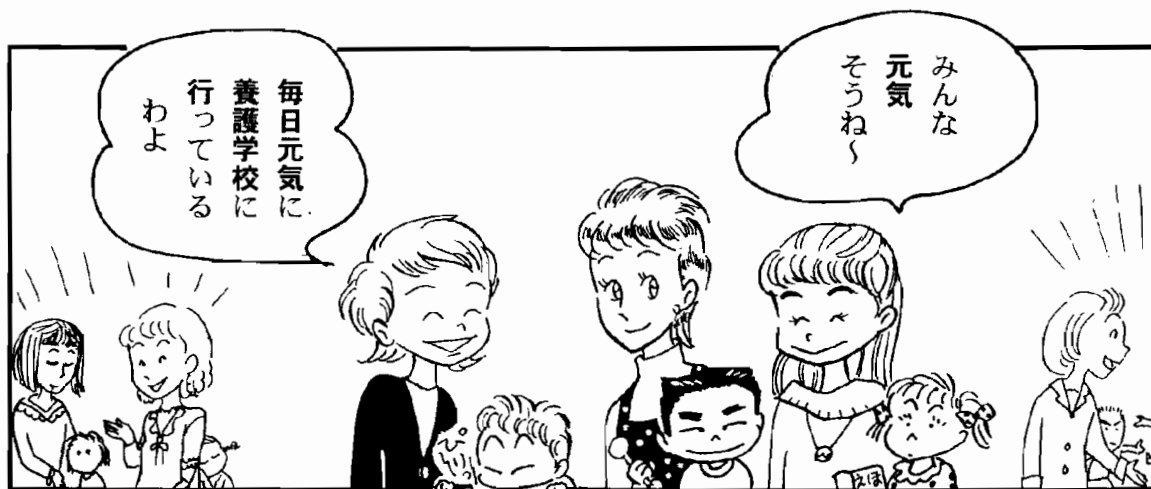
担任

その他 いっぱいの人



軽度発達障害のお友達







もしもお母さん  
とてもお急ぎの所とは思いますが  
「特別支援教育」を  
ご存知ですか？

言葉はよく聞きますけど、なんだか字からして  
難しそうだし大変そうなので、特に  
知らなくてもいいかなと思ってますが、

**正直!**

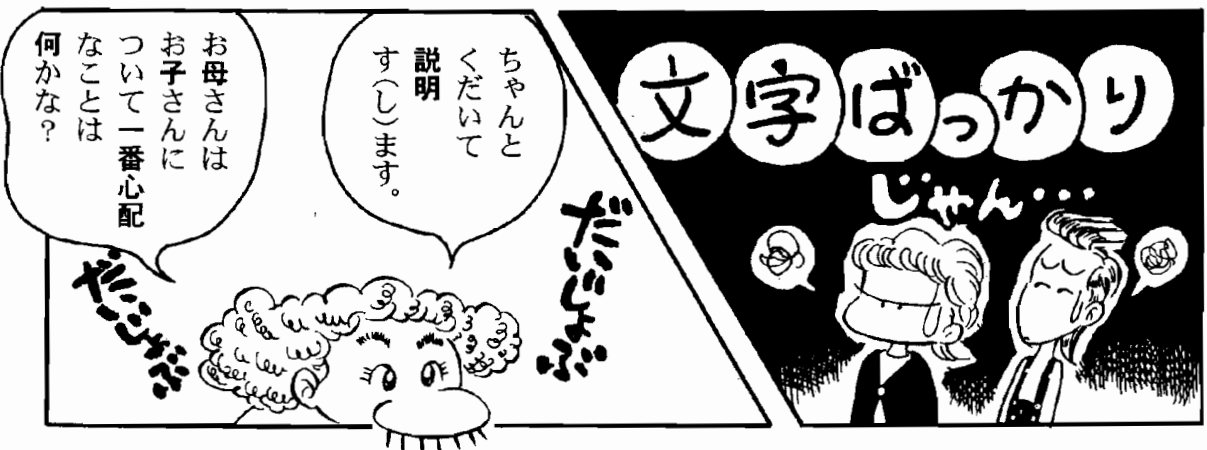
この本は「特別支援教育」を  
わかりやすくマンガで  
説明しています。  
ご一緒に学んでみませんか？

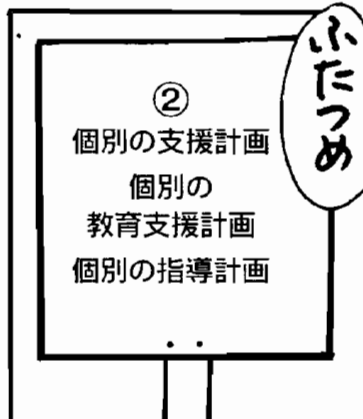
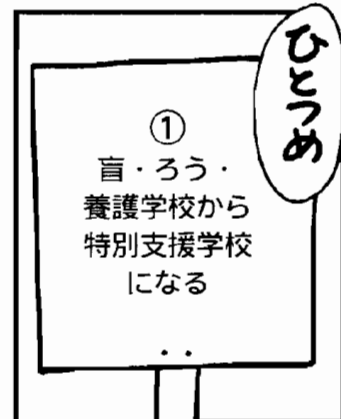
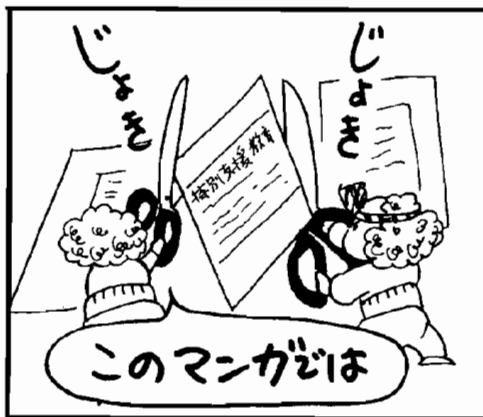


**特別支援教育とは**

障害のある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善または克服するため、適切な指導および必要な支援を行うものである。また小・中学校において通常の学級に在籍するLD・ADHD・高機能自閉症等の児童生徒に対しても適切な指導および必要な支援を行うものである。

平成17年12月中教審「特別支援教育を推進するための制度の在り方について」(答申)より一部抜粋





まずひとつめは、今から  
60年前にできた養護学校  
という名称が無くなり  
特別支援学校に生まれ  
変わるんじゃないよ。

# 60年

# わんぱく!

現在 盲・ろう  
・養護学校は  
5種別に分けら  
れているのは  
す(知)って  
いるかな?

知的  
ろう  
盲  
肢体  
病弱

今まではその  
障害に合った  
学校に行かな  
ければならな  
かったのが

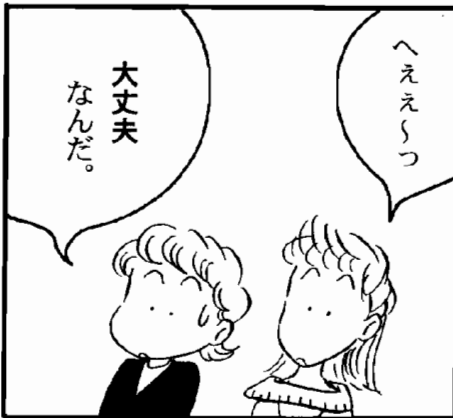
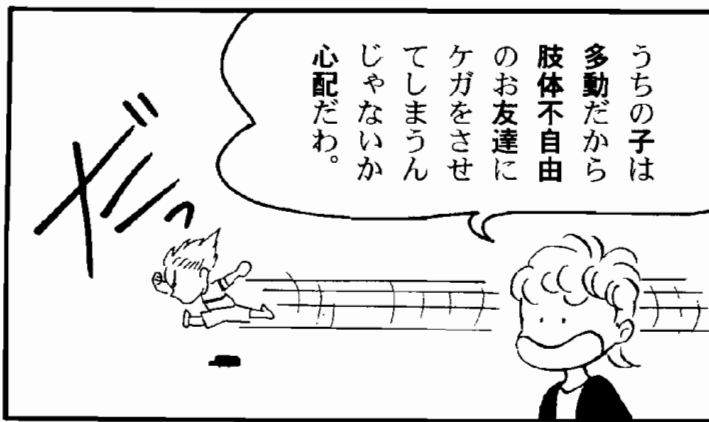
盲学校  
ろう学校  
知的校  
肢体校  
病弱校

「特別支援  
学校」になると  
障害種別の  
ワクが無くなり

ば ば ば ば ば ば

病弱 肢体 知的 ろう 盲

# みんないっしょ!



**校舎図**

すでに全国では\*知的と  
肢体の「併設型養護学校」は  
いくつもあるんじゃないよ

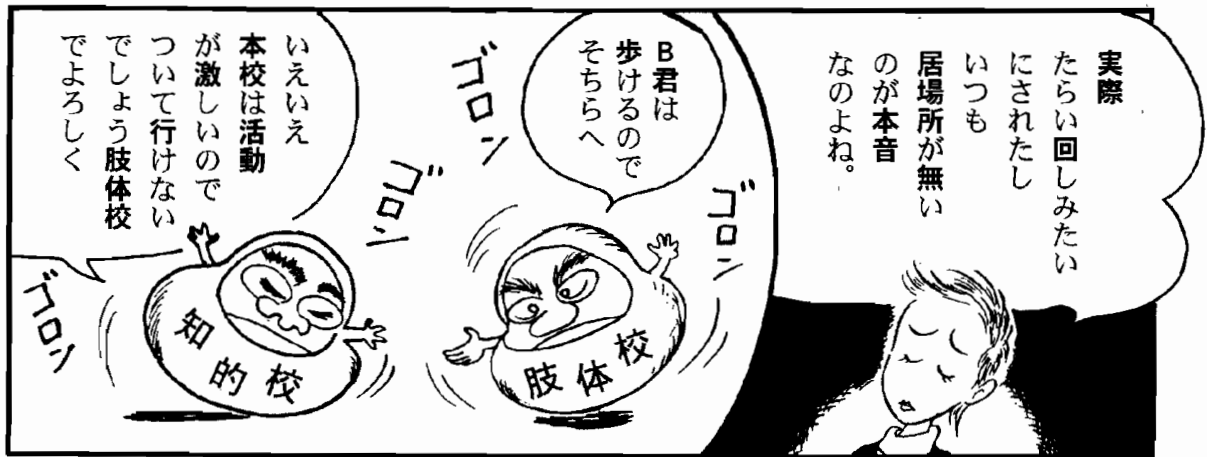
そこでは校舎の  
中が障害ごとに  
分かれていて  
安全は確保され  
ているんじゃないよ。

たとえば  
こんな感じ

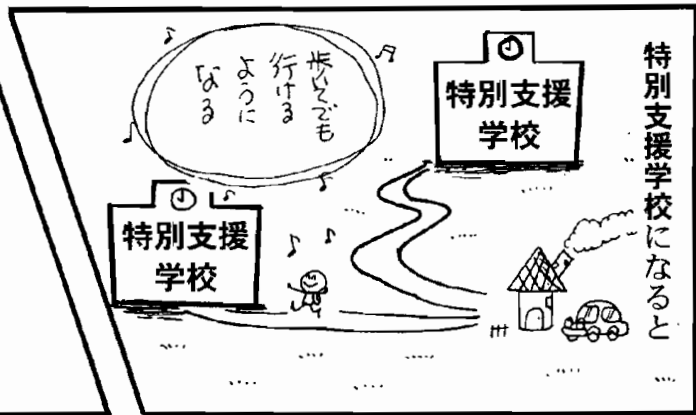
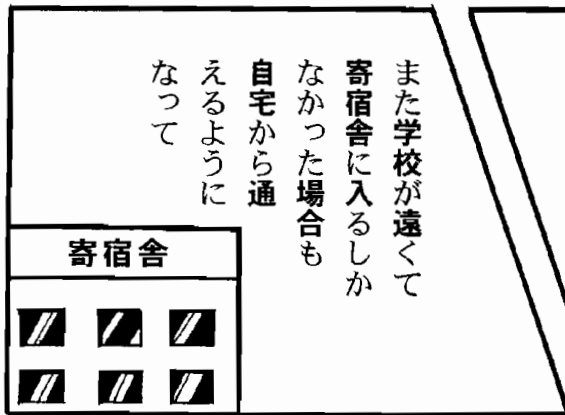
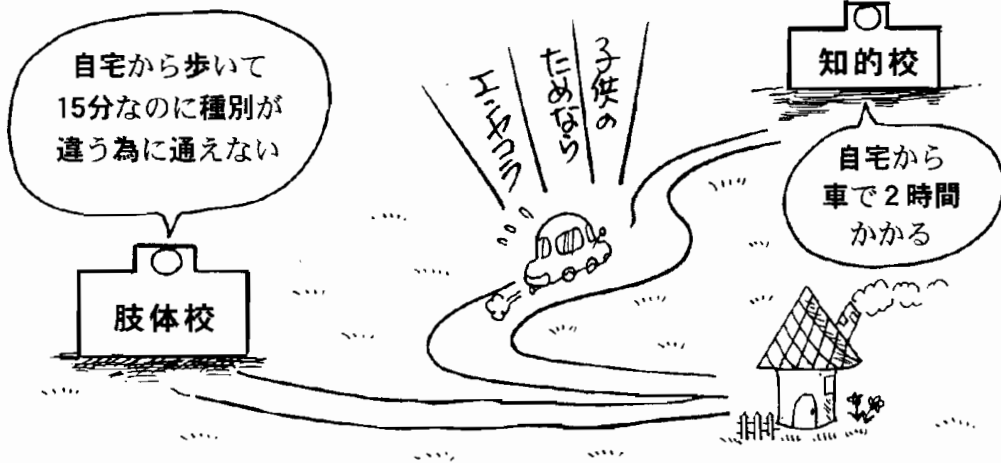
\*知的障害と肢体不自由

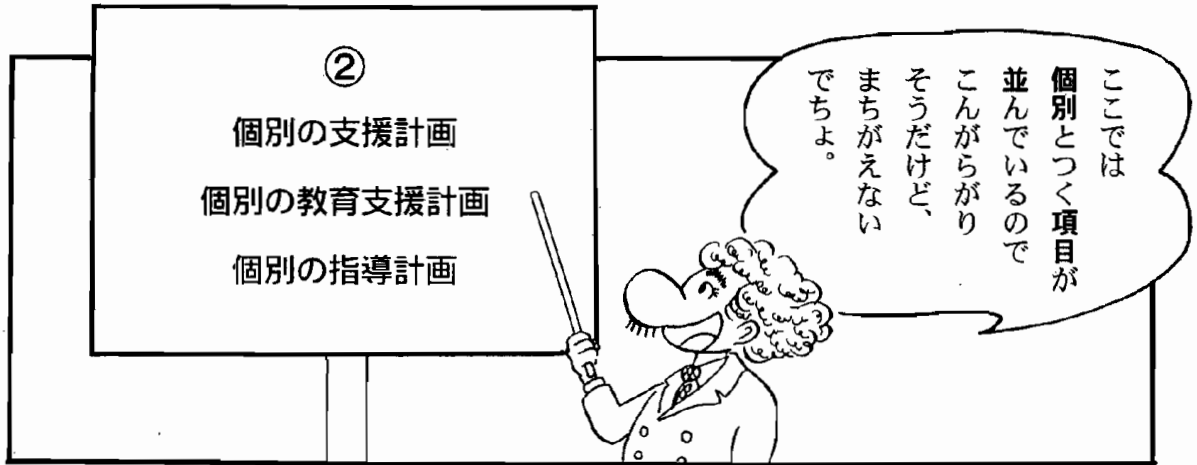






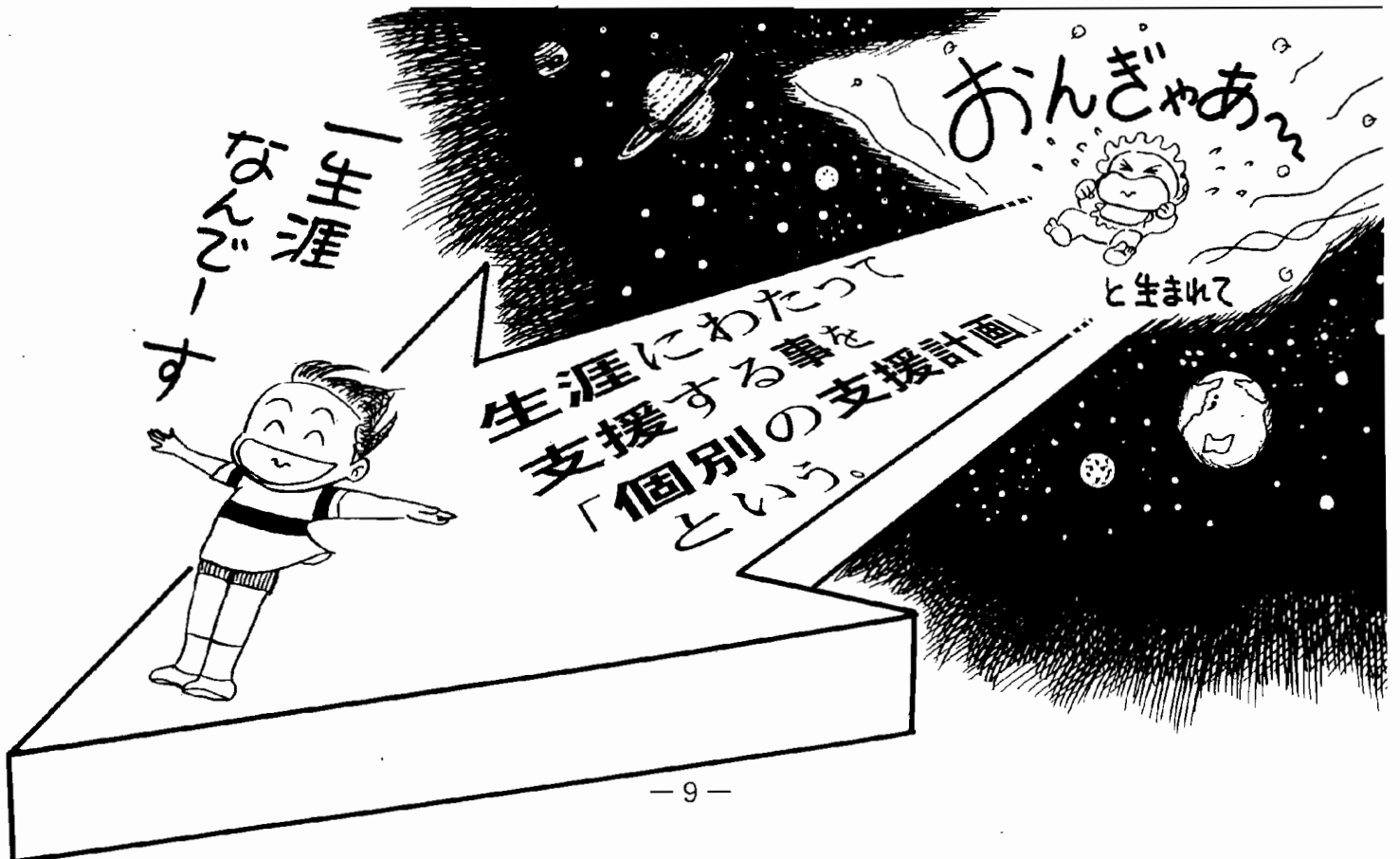
今までは遠くても  
障害に応じた学校に  
行かなければならなかったのが





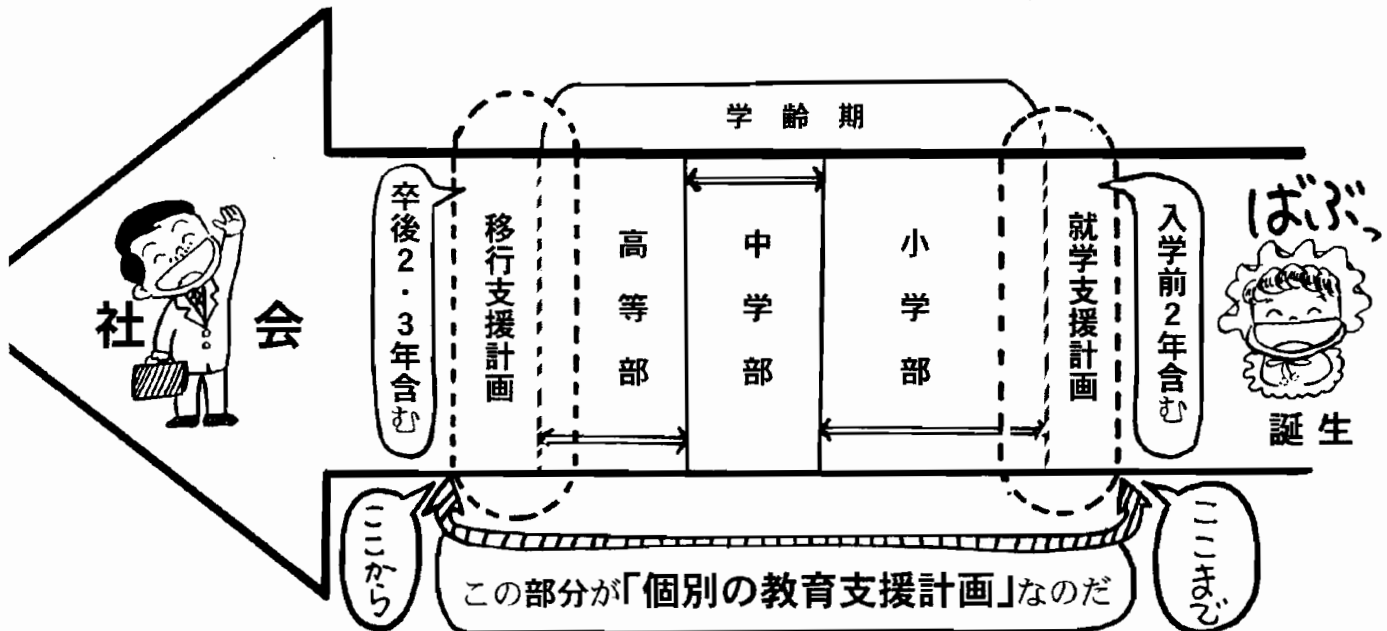
**個別の支援計画**

は、生まれて障害が分かった時から生涯にわたって支援する計画をいいます。

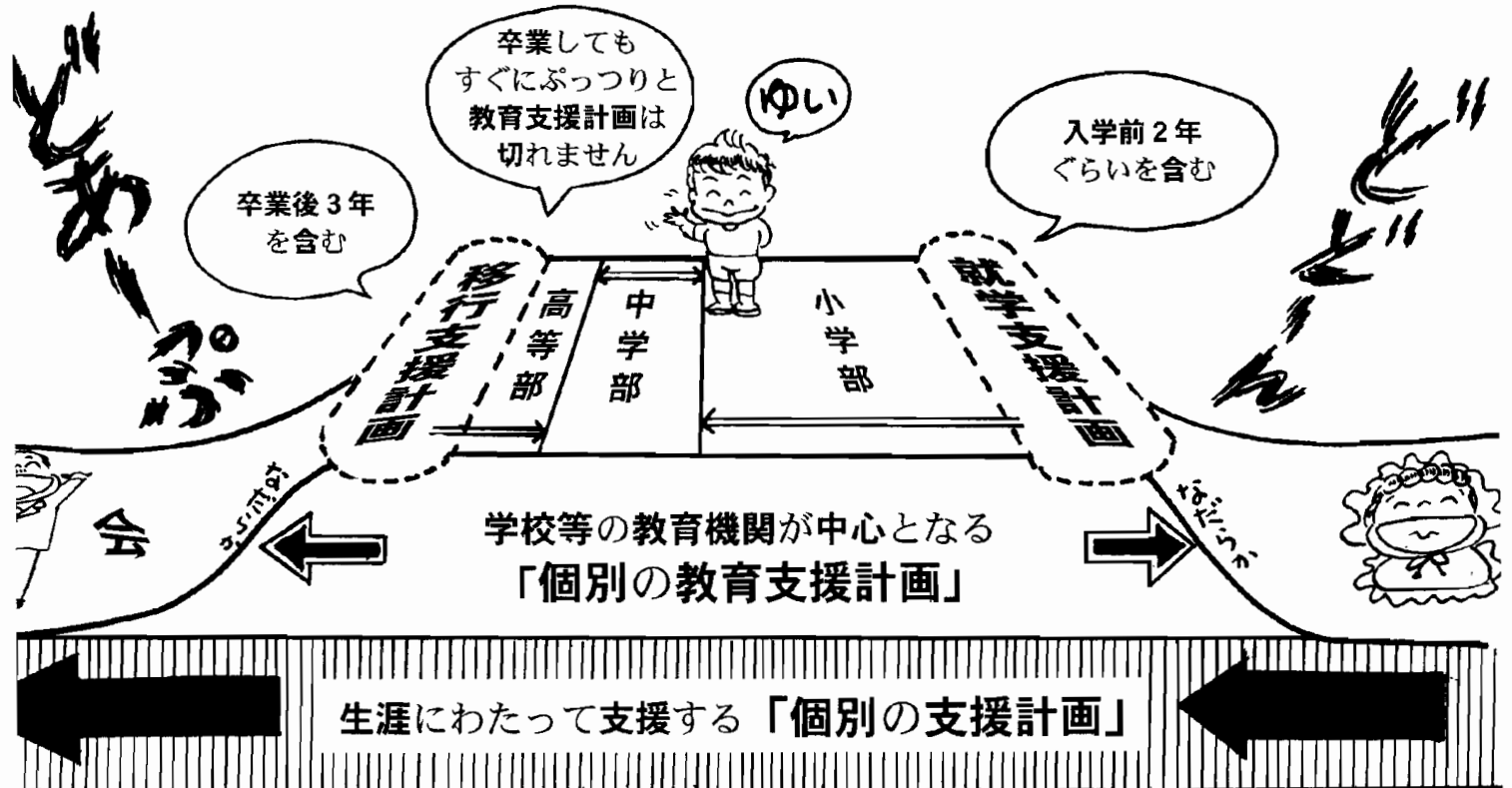


# 個別の教育支援計画

は、学齢期を中心とした入学前から卒業後までの支援をする計画をいいます

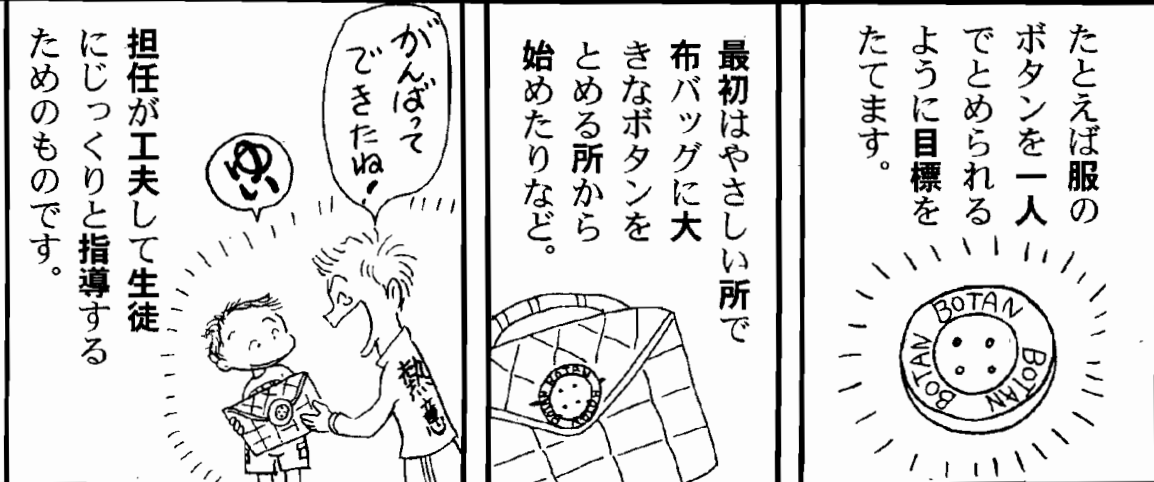


もっと立体的にクローズアップすると・・・



## 個別の指導計画

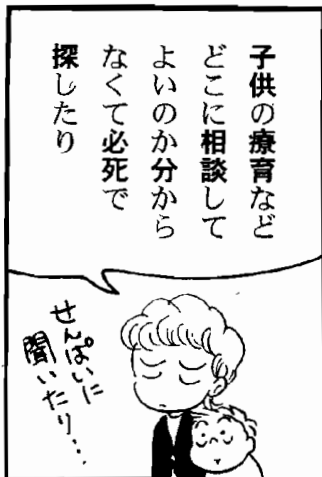
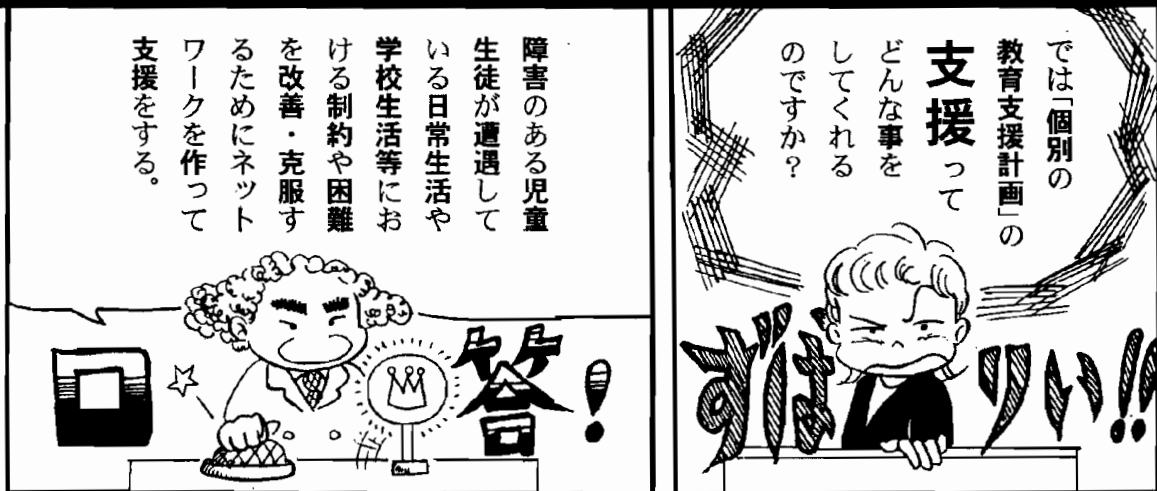
とは、学校での具体的な指導内容の計画をいいます。



これは

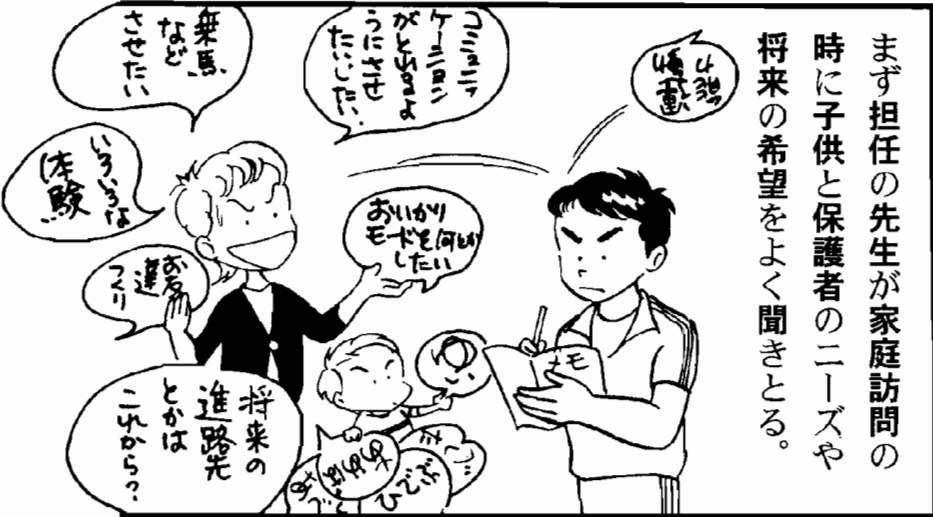
## 個別の教育支援計画

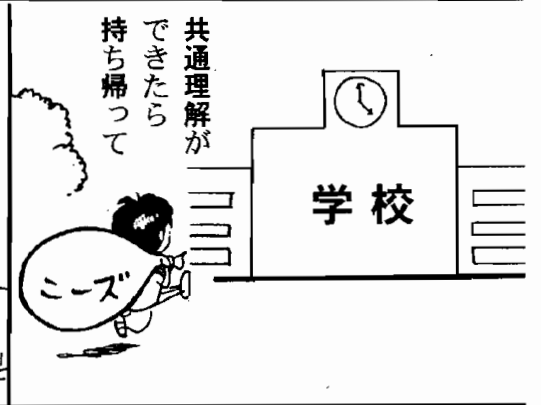
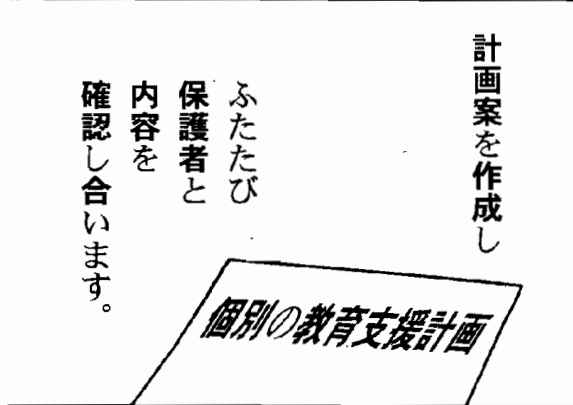
に反映されていきます。





# おどろけ 有安





**校内委員会**  
 特別な支援を要する児童・生徒やその保護者に対して、適切な教育や支援を行なうことを目的として各学校に設置される委員会のこと。構成メンバーは、校長、副校長、特別支援教育コーディネーター、学部主任、担任、等。

**特別支援コーディネーター**  
 特別な支援を要する児童・生徒やその保護者のために、学校内及び医療、福祉等の関係機関との連携・調整を行なう教職員のこと。



支援者である関係機関に連絡する

(※ P 25 の例を参照)



今でも毎日が  
大変なのに  
これ以上負担が  
かかるのはとても  
じゃないけど  
無理です。

夜は寝ないし  
昼はパニック  
気の休まる時  
が無い。

だんだん歳と  
ともに体力もなく  
なっちゃってる  
今日このごろ  
誰かにかわって  
ほしいのが本音。

いったい  
何をすれば  
いいん  
ですか？

たまには  
コーヒーを  
ゆつくり  
飲みたい。

自分の  
ことばかり  
だけ。



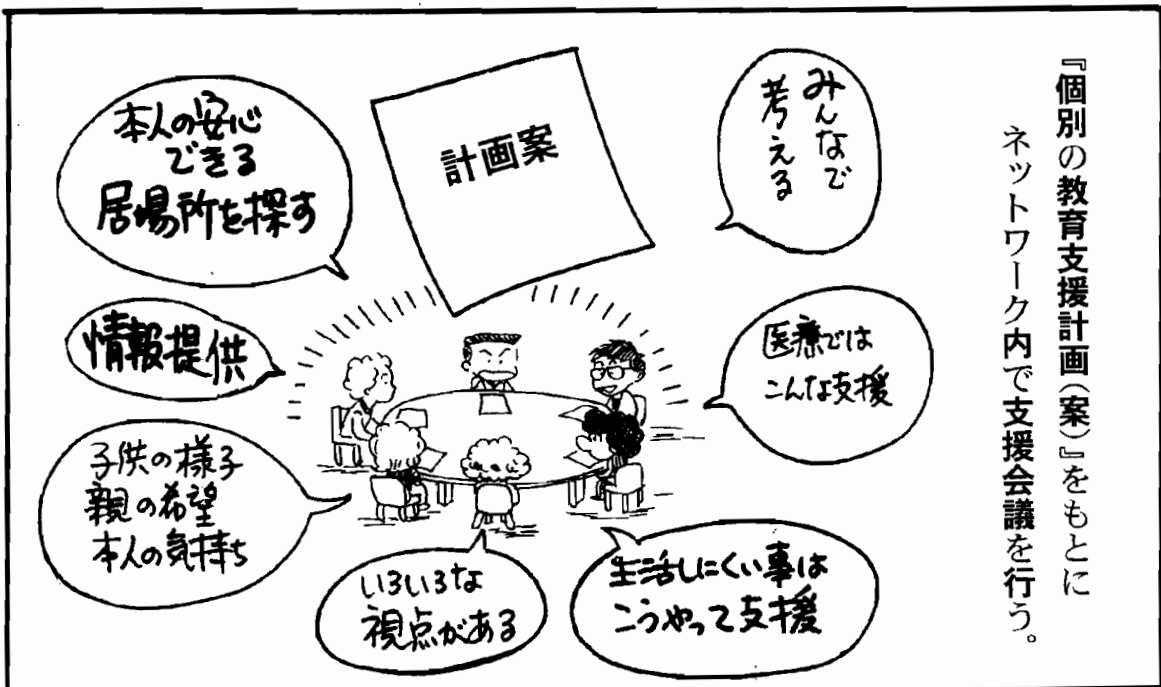


# A君のネットワーク

関係機関が連携し  
ネットワークを作る。



そして  
本人や保護者の  
ニーズを支援する為



※会議への参加が難しい所には担任などが出向いて話し合います。

いろいろな人が関わる事によりいろいろな選択肢が増える。  
地域のネットワークも膨らんでくる。

つまり会議で  
支援計画を立てて

プラン  
Plan

個別の教育支援計画  
支援内容

それを必ず実行し

ドウ  
Do

最後に評価をする

目標は  
こぼれたか...

次はどのよう  
に指導すればよ  
いか

この計画は本  
人とそとど  
ろか

無理はなかった  
か

身についたか

シー  
See

この様にみんなで  
使うので「計画」は  
支援のツール(道具)  
というわけじゃ。

重要なのは  
この計画案はただ  
の紙であつては  
ならないし

復活

重  
要

この評価を  
行なう事により

しっかりと  
引継ぎ

タッチ

計画案

今年度

次年度

正確に  
次年度に引継ぐ事  
になるんじやよ。



※参画とは計画に加わる事を言います。

その前というのは  
学校入学へ向けての

### 就学支援計画

の事を指します。

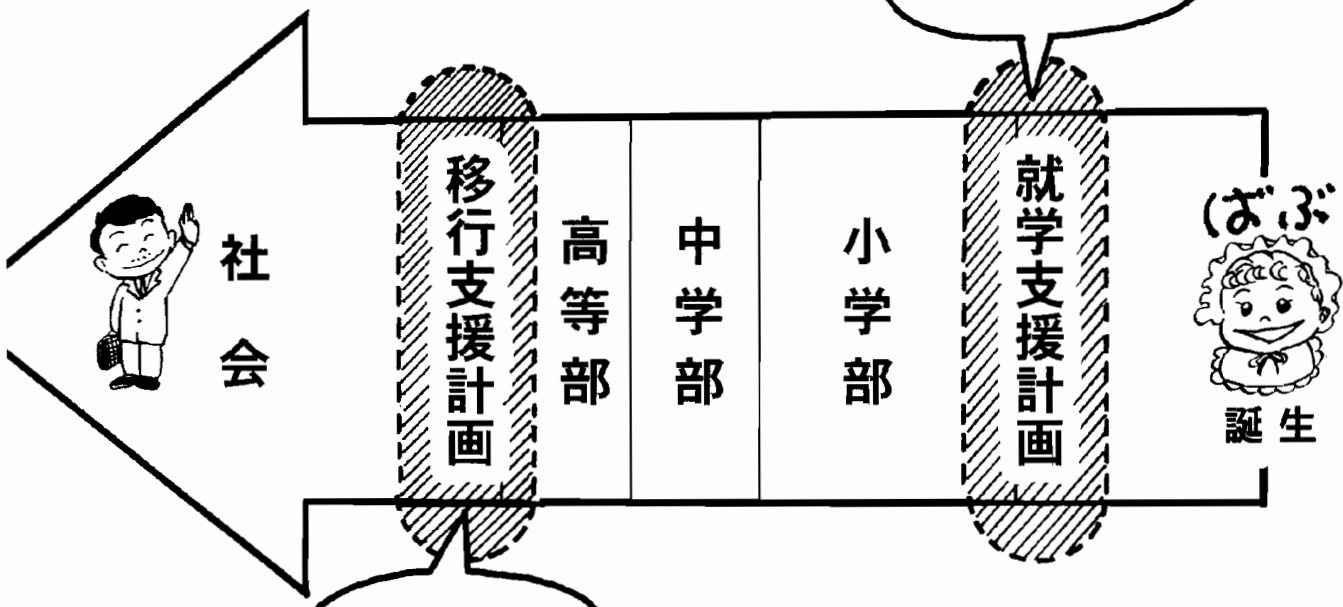
子供によって  
通っている  
場所が違って  
も同じよう  
に支援計画が  
作られます。



そうすると子供のことで別の  
場所に行くたびに  
同じ説明をしなく  
ても良くなるし  
支援が小学校に  
入ってもず——つ  
と続いていく。



この部分



この部分

その後というのは  
高等部卒業後へ向けての

### 移行支援計画

の事を指します。

在学中から就労など卒後の  
生活に必要な課題をみんな  
考えて解決をしていきます。

はたらき  
たいじょー



就労してからも  
学校は協力して  
くれるので



何かトラブルが起こっても学校  
がバックアップしてくれるなら  
と、安心して採用してくれる企  
業が増えるかもしれない。

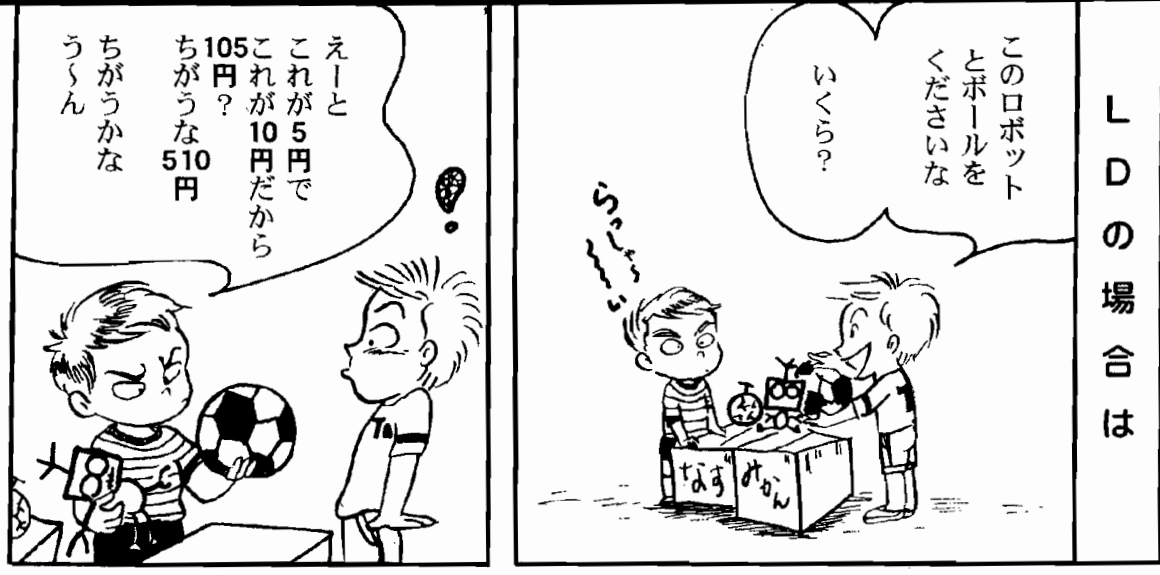


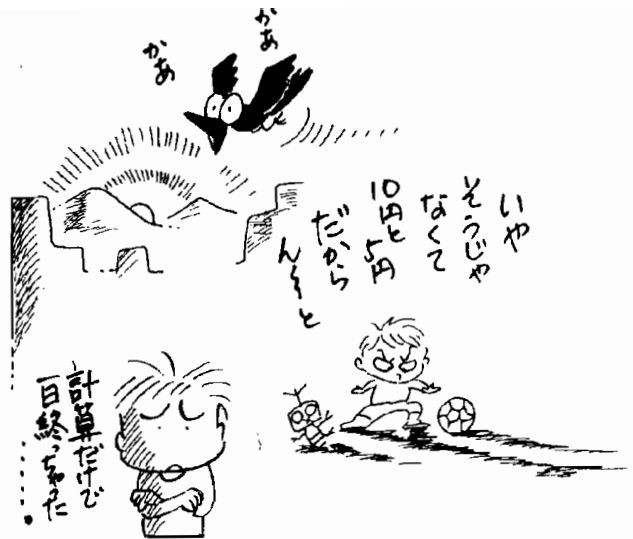
軽度発達障害それぞれの定義

<p><b>高機能自閉症</b>とは、 3歳位までに現れ、 ①他人との社会的関係の形成の困難さ ②言葉の発達の遅れ ③興味や関心が狭く特定のものにこだわることを特徴とする行動の障害である。</p>	<p><b>ADHD</b>とは、 年齢あるいは発達に不釣り合いな注意力、及び又は衝動性、多動性を特徴とする行動の障害で、社会的な活動や学業の機能に支障をきたすものである。また、7歳以前に現れその状態が継続する。</p>	<p><b>LD (学習障害)</b>とは、 聞く、話す、読む、書く、計算する又は推論する能力のうち特定のものの習得と使用に著しい困難を示す様々な状態を指すものである。</p>
--	--	--

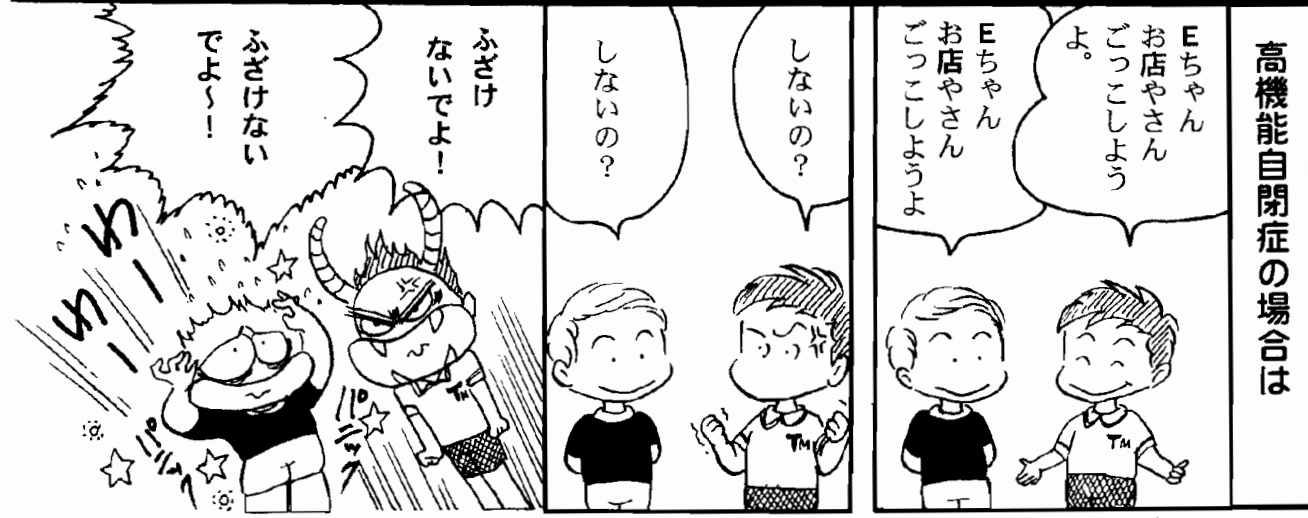
※いずれも知的発達の遅れを伴わない。 ※又、それぞれが複雑に重複している場合がある  
※アスペルガー症候群も含む (以上、一部抜粋しました)

さて、どんな子供達なのかほんの1例だが同じ場面として  
お店やさんごっこで遊んでいる時をたどってみよう





この様にADHDはおちつかないとか、人の話を最後まで聞かないとか、おしゃべりを始めると止まらないとかわすれ物が多いなどという特徴があるんじゃよ



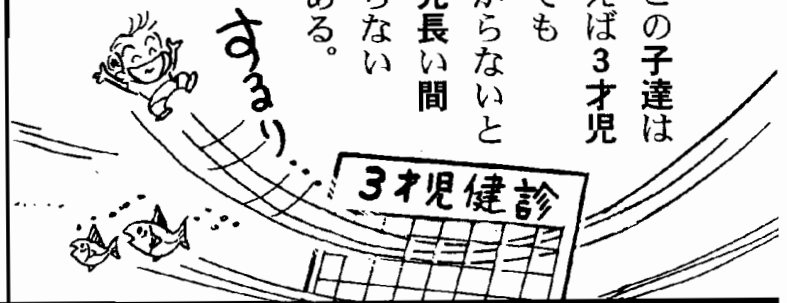


このタイプは言葉の発達の遅れからオウム返しになったり興味があるものにとだわりを持つたりするんじゃないよ。

この三つのタイプは複雑に重複している場合もあるんじゃないよ。

この様な子供達も養護の子と同じように今、通っている学校で適切な支援が受けられるようになるんじゃないよ。

またこの子供達はたとえば3才児健診でも見つからないとその先長い間分からない事がある。



つまり・・・こうだったのが



※その他とは「特殊学級、通級」の生徒のことです。

全員集る！

こうなるんじゃ



みんなで力を合わせて  
支援して  
子供達の精神的  
経済的自立や  
社会参加を  
応援する。

ぜひ  
そうして  
行きたいですね。

自立

自立

自立

特別支援教育の対象







## 「特別支援教育」は まだ始まったばかりです。

このマンガを作っている途中でもあちこちで新しい取り組みが始まっています。  
また、全国規模の取り組みなので、それぞれの地域に応じた形があり、すべてがここに表現したとおりに進むというわけでもありません。

そうなる予定を書いた部分もあります。

ただ、はっきり言えることは、この現在進行形の「特別支援教育」をよくするのもあまり機能しないものにするのも、私達保護者を含めてどれだけ多くの人がこの意義を理解し、協力するかにかかっているということです。

私たち保護者の願いは、障害のある子供たちが地域の人々に理解され、共に支え合いながら社会や地域の一員として安心して豊かに生き生きと暮していけることです。

そのためにもこの「特別支援教育」が本当によりよくなるように。

## 特別支援学校のセンター的機能

特別支援学校が、教育上の高い専門性を生かしながら、地域の小・中学校を積極的に支援していくこと。

\*中央教育審議会、平成17年「特別支援教育を推進するための制度の在り方について（答申）」

## 支援機関の例

家庭生活	・福祉事務所 ・障害者福祉センター ・ヘルパー、ボランティア ・障害福祉課（ショートステイの利用援助、ステイ施設等）等
余暇 地域生活	・児童館 ・学童クラブ ・スイミング ・障害者スポーツセンター ・習い事 ・〇〇の会 ・放課後活動支援団体 ・親の会 等
医療 健康 教育相談	・病院（小児科、眼科、歯科、耳鼻科、口腔外科、整形外科 等） ・PT（理学療法士）・OT（作業療法士）・ST（言語療法士） ・保健所 ・療育センター ・交流している小学校 ・各種研究機関 ・車椅子、補装具等の作成、修理を行なっている機関 等

## 協力頂いた方々

三室 秀雄先生（前都立武蔵台養護学校校長）

山岡 修氏 全国LD親の会会長

三苫由紀雄先生（都立高島養護学校校長）

高山恵子氏 NPO法人えじそんくらぶ

渡辺 和弘先生（都立調布養護学校校長）

## 参照資料

- ・調査研究協力者会議、平成13年「21世紀の特殊教育の在り方について（最終報告）」
- ・文部科学省、平成15年「今後の特別支援教育の在り方について（最終報告）」
- ・中央教育審議会、平成17年「特別支援教育を推進するための制度の在り方について（答申）」
- ・東京都心身障害教育改善検討委員会、平成15年「これからの東京都の特別支援教育の在り方について（最終報告）」
- ・東京都教育委員会、平成16年「東京都特別支援教育推進計画」
- ・学校教育法 ・障害者基本法 ・発達障害者支援法 ・国際障害者年行動計画
- ・障害者の機会均等化に関する基準規則 ・国際生活機能分類（ICF）
- ・サラマンカ声明
- ・平成16年度 文部科学省特別支援教育推進体制モデル事業 報告書
- ・平成17年度 文部科学省特別支援教育体制推進事業 研究紀要
- ・学習障害（LD）及びその周辺の子どもたち 尾崎洋一郎他 同成社
- ・ADHD及びその周辺の子どもたち 尾崎洋一郎他 同成社
- ・「LD・ADHD・高機能自閉症とは？」・「LDってなんだろう？」全国LD親の会
- ・「今、親にできること」・「みんな違ってみんないい」 えじそんブックレット
- ・いのちをくむ支援教育の展望 支援教育時代の就学前教育 日本重複障害教育研究会

## おわりに。。。

当初、膨大な山積みの資料の中でどのように書いたら読んでくださる皆さんに伝わるのだろうと頭を抱えていました。簡潔にわかりやすく、しかも正確に表現するというのもとても難しく、私達の力をこえていました。

でも、マンガを制作する途中の話し合いの中で、数人のメンバーから軽度発達障害の保護者の方から相談を受けた、との発言がありました。兄弟の通う保育園や学校の保護者からです。軽度発達障害は世間一般での理解が漸く始まったばかりで、まだまだ多くのかたが対応に悩んでおられる現状が目の前にありました。今、ここで私達にできることを、というのが制作の原動力でした。

私たち知的障害者の保護者の多くは、今まで自分の子供の障害について学び情報を得、理解してください、手を貸してくださいと回りの方々に訴えてきたと思います。特別支援教育はそういった行動を、保護者だけでなく関係機関が手を取り合って地域ぐるみで支え、地域全体でサポートしていこうというシステムを確立する取り組みだと思えます。

そして私たちも地域の一員として、自分の子供だけではなく、障害種別をこえて回りの子供達や保護者のことにも目を向けて理解を深め、共に手を携えていくことが求められているのではないのでしょうか。そうすることで、それぞれをかけがえのない地域の一員として認め合い、共に地域を作っていくのではないのでしょうか。

私たちの子供が生き生きと暮らしていける社会は、どんな人もその人らしく豊かに暮らせる社会です。それを目指して、御一緒にもう一步踏み出してみませんか。

### 平成16年度「東京都知的障害養護学校PTA連合会」役員名

中瀬 節子	(元都立武蔵台養護学校PTA会長)
飯田なおみ	(元都立調布養護学校PTA会長)
佐々木桃子	(元都立矢口養護学校PTA会長)
佐藤 るみ	(元都立水元養護学校PTA会長)
高橋 久子	(元都立高島養護学校PTA会長)
岡部 清子	(元東京学芸大学附属養護学校PTA会長)
大畑 篤子	(元都立青島養護学校久我山分校PTA会長)

※ このマンガの著作権は高橋久子氏に、  
複製権は全国知的障害養護学校PTA連合会に属するものとします

本作品の著作権は作者の高橋氏に、複製権は全国知的障害養護学校PTA連合会（全知P連）にあります。

本作品は、原則として自由に複製（コピー・印刷等）していただいて構いません。ただし、コピー代等の実費を超える有償での頒布・販売や、無償や実費の範囲による頒布であっても、同時に掲載する広告収入を得て制作する場合や、出版社等のタイアップ等による場合などについては、予め全知P連にご相談ください。また、商業誌等への無断転載はお断りいたします。なお、複製の際にはこの枠内の文章も記載してください。